

# 北海道浮魚ニュース

平成 28(2016)年度 13 号

2016 年 7 月 29 日

道総研 水産研究本部

釧路水産試験場

ホームページ:

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## 平成 28 年度サンマ長期漁海況予報（道東～常磐海域）発表される

7 月 29 日、水産庁より平成 28 年度サンマ長期漁海況予報（道東～常磐海域）が発表されたので概要をお知らせします。<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/160729.html>

なお、この予報は関係試験研究機関による資源調査結果等を踏まえて、東北区水産研究所が取りまとめました。予報文の全文は、以下の東北区水産研究所のサイトでご覧になれます。

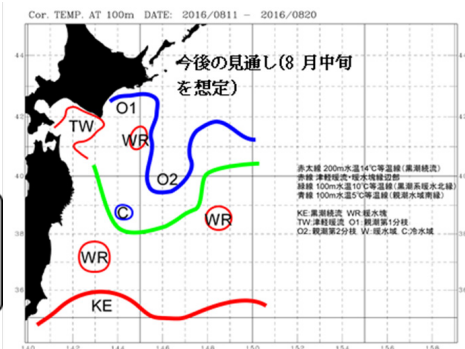
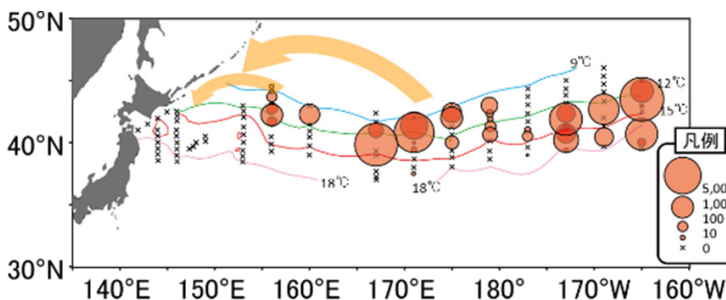
<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/press/h28/20160729/20160729sanmayohou.pdf>

### 今後の見通しのポイント

（漁況：平成 28 年 8 月から 12 月まで、海況：平成 28 年 8 月及び 9 月）

対象海域：北西太平洋（道東海域から常磐海域）、対象漁業：サンマ棒受網

- 資源量推定値が昨年よりやや減少していることから、漁場への来遊量は昨年をやや下回ると予測される。
- 大型船出漁後（8 月下旬）の漁期初めは、漁場は択捉島沖以北の広い海域に分散し、漁況も低調に推移する見込み。その後、漁況は上向くものの、旬別漁獲量の変動は大きくなると予測される。
- 親潮第 1 分枝の南限は極めて北偏、釧路沖の暖水塊は停滞し、津軽暖流の張り出しは強いと予測されるため、道東～三陸海域の水温は高めで経過する見込み。親潮第 2 分枝の南限は平年並み～やや南偏で推移するため、漁期中盤以降の漁場は親潮第 2 分枝沿いの沖合に形成されると予測される。
- 三陸海域への南下は平年よりやや遅れ、漁場形成は 10 月中旬となると予測している。
- 漁獲物は漁期を通じて 1 歳魚の割合が高く、昨年（85%）並みの見通し。



平成 28 年 6 月～7 月に行ったサンマ分布調査の結果 海況の今後の見通し（8 月中旬）

（釧路水産試験場 調査研究部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225）